

高島歴史民俗資料館と周辺遺跡群



高島歴史民俗資料館

高島歴史民俗資料館は、昭和56年10月8日に開館しました。資料館の北には、滋賀県指定史跡稲荷山古墳（鴨稻荷山古墳）があります。開館の動機は、昭和54年、鴨地区のほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査で、平安時代前期の役所跡から考古資料が大量に出土したこと、また、高島民具クラブの採集された民具類および高島町史編さん事業に伴う史料群の収集・保存・展示のためでした。以後、文化財保護の拠点施設としての機能を果たしてきました。

昭和58年11月には、高島町制40周年記念事業のひとつとして、鴨稻荷山古墳出土で東京国立博物館所蔵の「金製垂飾付耳飾」一対と「金銅製環頭柄頭」を出陳していただき、里帰り展を開催しました。当時、担当学芸員と職員は、警備のために24時間資料館に張り付いていたというエピソードがあります。

時が流れて平成17年1月1日、高島市が誕生。高島町歴史民俗資料館は高島歴史民俗資料館となり、朽木資料館・マキノ資料館とともに新たな運営をスタートさせました。合わせて文化財保護対象の地域も高島市全域に拡大されることとなりました。

平成19年は第26代継体天皇の北河内の樟葉宮での即位から1500年の年でもあり、出自に關連する伝承・遺跡・文献などが鴨地区から三尾里・北出・田中へと広がりをみせていることから「継体天皇關連遺跡を歩く」というマップを作成しました。この

マップは好評を博し、現在も多くの来館者がマップを手に、現地見学をされています。

数年前から資料館では、職員による手作りのジオラマ・模型・体験コーナーなど、いろいろな手法を使って来館者のニーズにあった展示にリニューアルしています。

毎年市内の小学校から、一学期には6年生が古墳見学を含んだ歴史学習に、三学期には3年生が昔のくらしを体験する民具学習に資料館を訪れてくれます。

また近年、資料館の北方に位置する天神畑遺跡・上御殿遺跡の発掘調査からは、古代中国北方系の短剣鏃型・古代朝鮮半島系大壁造り住居跡・古代の祭祀具・建築用材・中世の祭祀具など、今までの発掘調査例からは検出されることの少ない考古資料が大量に出土し、我々を驚かせています。

今、資料館では恒例の「古雛展」を、3月16日まで開催しています。今年は、御殿雛と押し絵雛

も展示しています。ぜひ、この機会に春を待つ古雛さんを見学され、「継体天皇關連遺跡を歩く」マップを手にして、地域の古代史を体感してください。



高島歴史民俗資料館

☎(36) 1553

編集感

ソチオリンピックのスノーボード女子ハーフパイプで滋賀県出身の岡田良菜選手が日本選手として過去最高の5位に入賞される快挙を達成されました。滋賀県人として特に嬉しいですね。快挙といえば、全国中学校スキー大会のクロスカントリー女子リレーで安曇川中学校の4選手が9位入賞されました！同大会入賞は県内初とのことで、こちらもすごい快挙です。おめでとうございます。高島市出身の選手がオリンピックをわかつ日は近いかも？ (5)



広報たかしま

平成26年

3

月号
No.170

発行 高島市

編集 政策部企画広報課

〒520-1000 滋賀県高島市新旭町北畑のふき地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
✉info@city.takashima.shiga.jp

古代製鉄

北牧野くちなし谷炭窯遺跡

マキノ高原温泉さらさの横を通り過ぎ、スキー場の麓を道なりに進んでいくと、斧研川に小さな橋が架かっています。ここを左に折れて小道に入り、右手奥の斜面をのぼった先に、扉のついた洞穴がひっそりと存在しています。

昭和58年（1983年）、地元で通称「人穴」と呼ばれていたこの洞穴を調査したところ、四方の壁が焼けて黒くなり、穴の底には木炭の滓が重なる残っていました。これは炭焼き窯が発達してきた歴史を照らし合わせて、奈良〜平安時代（8〜9世紀）頃の大規模炭窯ではないかと考えられています。

この北牧野くちなし谷炭窯遺跡に見られる大型黒炭窯は各地で発見されていますが、そのほとんどは窯の床面だけが残っているような状態です。くちなし谷炭窯遺跡

では、天井まで無傷の状態で、窯が実際に使われていた古代のままの姿で保存されています。また、山の中腹の斜面を完全にくりぬいた珍しい構造で、古代の木炭生産を研究するために貴重な遺跡です。この炭窯で焼かれた木炭は、ここから500mほど離れた場所に存在する北牧野製鉄遺跡で、燃料として使われていたと考えられます。

古代の鉄は、砂鉄や鉄鉱石を高熱の木炭で溶かして作ったと考えられています。北牧野製鉄遺跡では、製鉄炉の近くに砂鉄が見当たらないことや、鉄滓のチタン酸量が少ないことから、砂鉄ではなく鉄鉱石から作られたものと思われる。

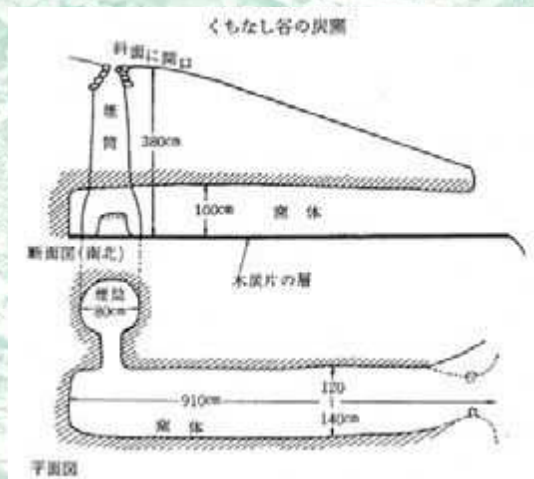
鉄鉱石を原材料にしたとすると、その鉱石はどこから運んできたものなのでしょうか。北牧野製

鉄遺跡から北北西の方角にある大谷山には、鉱石を採掘した跡が残っています。ここは製鉄遺跡の横を流れる斧研川の上流にあり、採掘跡から山を下りる道が遺跡の近くを通っています。

ただ、標高500mほどの山の中腹にあり、川沿いとはいえ鉱石を運ぶには険しい道であるため、古代の人々が人力で運び出したとすれば、かなりの危険を伴う作業であったことでしょう。

炭窯・製鉄炉・鉱石の採掘跡の存在から考えると、北牧野製鉄遺跡一帯は、古代製鉄の工業地域として発展した場所であったことがうかがわれます。また、製鉄遺跡から南の方角に位置する、100

基以上の古墳からなる北牧野古墳群は、当時の地方有力者の存在を示しています。さらに湖西最大の駅（奈良〜平安時代に官道の拠点として作られた施設）と考えられている鞆結駅（現在の閑静な様子からは想像もつかないほど繁栄した、古代の重要地であったのかもしれない）



文化財課

(32) 4467

編集感

4月から広報担当になったEです。よろしくお願ひします。先日、7月では珍しい、大型で非常に強い台風8号が日本列島に接近しました。まだまだ記憶に新しい去年の台風18号を思い出し、改めて防災意識を高めなければと身が引き締まる思いです。さっそく家で放置されていた「防災グッズ」を見直し、包帯替わりなどにもなるサランラップをひと加え。準備できることが1つでもあるなら、備えておくにこしたことはありません。台風の季節はまだまだこれから。皆さんも、もう一度見直してみてもいい？（E）



広報たかしま

平成26年

8

月号
No.175

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒590-1103 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740 (25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉ t-info@city.takashima.lg.jp



高島市の埋蔵文化財

市内には、364を数える「埋蔵文化財」が存在することを皆さんご存じでしょうか。埋蔵文化財とは、土地に埋まっている文化財のことです。主に「遺跡」とよばれています。遺跡には、古代の人々の営みの痕跡である集落跡や、有力者の亡骸を横穴式石室に葬った古墳、寺院跡や戦国時代の軍事的な施設跡である城跡や館跡など、多くの種類が存在します。この埋蔵文化財の範囲で工事などを行う際は、その内容によって発掘調査が実施されますが、その数は、全国で年間9千件にのぼります。市内でも、100年程前に京都帝国大学が行った鴨稻荷山古墳の発掘調査を皮切りに、マキノ地域の北牧野製鉄遺跡や齊頼塚古墳、北牧野古墳群の発掘調査、今津地域の日置前遺跡発掘による彩色壁画の発見、新旭地域の清水山城館跡や高島地域の溝城下の発掘、朽木地域の朽木氏関連遺跡や庭園の調査、安曇川地域の

田中古墳群や南市東、下五反田遺跡など、数多くの発掘調査が実施されました。特に、マキノ地域の製鉄遺跡は、昭和42年（1967年）、同志社大学による学術調査が行われ、全国でも早い時期に製鉄が行われていたことを示す遺跡として評価されています。また、昨年、安曇川地域の上御殿遺跡から出土した「双環柄頭短剣」の鋳型は、国内に類例がなく中国北方地域のオルドス式銅剣との関連性が指摘されています。このように、埋蔵文化財には、新たな歴史的発見の可能性が秘められています。

今月は、こうした遺跡の真髄に迫る講演会を2週連続で開催します。高島の新たな歴史ロマンを探ってみてはいかがでしょうか。

11/23 日 【地域別講演会】 「古代近江の鉄生産 - 継体大王から藤原仲麻呂の時代 -」 (会場) マキノ土に学ぶ里研修センター

高島における古代の鉄生産のしくみや、当時のヤマト朝廷と高島の古代豪族との関わりを文献と考古の双方の視点から語り、解き明かします。
(詳しくは広報たかしま 10月号P 33をご覧ください。)

▼時間 13時～16時30分頃

▼内容

講演1 「文献から古代高島の鉄生産を考える」

講演2 「考古学からみた古代製鉄の始まり」

フォーラム

▼定員 120人 ▼参加費 500円

問・申 文化財課 ☎(32) 4467 (月～金)

編集
雑感

外の空気が肌寒くなったと思ったら、今年も残すところあと2か月。すっかり秋らしくなりました。最近「秋バテ」という言葉があるようで、体がだるい・食欲がないなどの夏バテに似た症状がみられるようです。適度な運動をしたり、ぬるめのお湯にゆっくり浸かってリラックスする、温かい飲み物で血液循環を良くすることも「秋バテ」解消に効果的とのこと。

年末に向けてますます忙しくなるこの時期だからこそ、体のことを労わってあげましょう。(E)

11/30 日 【埋蔵文化財講演会】 「天神畑遺跡・ 上御殿遺跡の魅力を探る」 (会場) 安曇川公民館

青井川改修に伴う天神畑遺跡・上御殿遺跡発掘調査では、双環柄頭短剣鋳型の出土ほか、縄文時代の遺構、古墳時代前期～平安時代の川跡や護岸工事跡、奈良時代～平安時代の掘立柱建物跡が検出されるなど、多くの成果をもたらしました。

▼時間 13時30分～16時30分

▼内容

講演1 「祭祀を続けた遺跡の発掘調査を終えて」
県文化財保護協会 中村智孝さん

講演2 「双環柄頭短剣鋳型をはじめとした出土遺物」
県文化財保護協会 中村健二さん

▼定員 50人

(11月1日から申込受付。定員になり次第締切り)

▼参加費 無料

問・申 高島歴史民俗資料館 (月・火休館)

☎(36) 1553 FAX (36) 1554



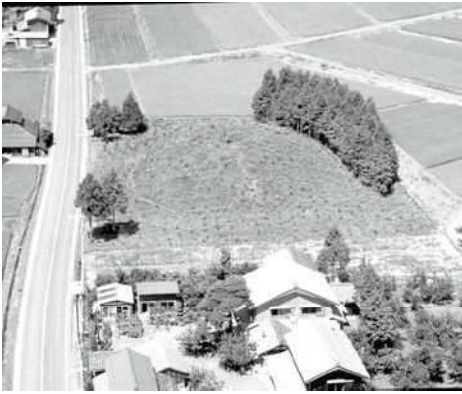
いにしえ
古の高島を語る

「二つの王塚」

高島市内には、「王塚」の名前をもつ二つの大型古墳の存在が知られています。「平ヶ崎王塚古墳」と「田中王塚古墳」。これら二つの古墳が語る古代高島をたどります。

「平ヶ崎王塚古墳」

今津町日置前・酒波の字境に所在する「平ヶ崎王塚古墳」は、二段築成の円墳で、墳丘の直径は約56m、高さ約7m、墳頂部径約18mの規模をもっています。古墳の周囲には幅約12mの周濠がめぐり古墳全体では直径約80mで、平地に築かれた古墳としては県下でも最大級のもので、高島の古墳時代の解明に重要な意義をもち、



平ヶ崎王塚古墳（今津町日置前）

「田中王塚古墳」

近江の古代史の研究に欠くことのできない遺跡として、昭和62年3月に県の史跡に指定されています。

安曇川町田中の泰山寺野台地の東端に所在する「田中王塚古墳」は、継体天皇の父「彦主人王」陵墓参考地とされ、宮内庁の管轄下にあります。詳細な調査は行えていませんが、帆立貝形をした二段築成の古墳で、全長約72m（墳丘の直径約65m）、高さ約10mの規模をもっています。墳丘周囲には埴輪片や川原石がみられることから、墳丘上は埴輪や葺石等で飾られていたものと想定されています。採集された埴輪の年代観から5世紀中頃から後半頃のものと考えられています。



田中王塚古墳（安曇川町田中）

▼古墳が語る古代高島

二つの王塚古墳は規模・墳形・築造方法など共通するところが多くみられます。また周辺には直径10〜20mクラスの古墳群がみられ、平ヶ崎王塚・妙見山古墳群（方墳・円墳80基）、田中古墳群（方墳・円墳70基）などの一番北側に位置している点も共通しています。

古墳の築造時期は、平ヶ崎王塚古墳については出土遺物がなかったため明確ではありませんが、5世紀前半説と後半説があります。前者の説をとれば、高島のほぼ全域を治める首長の墳墓が石田川左岸から安曇川右岸の地に移ったとする考え方が可能となります。他方、後者の説をとれば、高島の北と南に二大勢力が併存していたとする考え方が可能となります。

▼古代高島に巨大勢力が存在

5世紀という時期に、それまでの古墳の規模とは隔絶した大型古墳が、石田川左岸や安曇川右岸の地に突如出現した事実は、在地の豪族の勢力がこの時期に飛躍的に拡大したことを示すものとみられる。それ以外の勢力がこの地域に、なんらかの目的をもって移住してきたものとみるのに分かれます。いずれにしても、この時期に大型古墳を造るほどの勢力が高島に本拠を置いたことに間違いはないといえます。

文化財課

☎(32) 4467

編集感

新年明けましておめでとうございます。いよいよ新しい一年の始まりですね。

一年の始まりと言えば、小学生の頃は「新年の抱負」を作文で書いていたなあと、ふと思い出しました。私は絞り出すようにいやいや書いていたのですが、今になって考えると、目標をもつことは日々を充実させるための良いスパイスになると思います。

皆さんもぜひ、自分にできる目標を立ててみませんか？

今年一年が、これまで以上に飛躍する年となりますように！ (E)



広報たけしま

平成27年

1

月号
No.180

発行▼高島市

編集▼政策部秘書広報課

〒900-1001 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25) 8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

古代の装身具

―発掘された宝石たち―

人はいろいろな素材を用いてアクセサリを作り、身を装ってさまざまな思いを表現しています。いつの頃から、どうして身を飾り、何を主張しようとしたのでしょうか。

身近な色を飾り安らぎを得る

高島市内で出土した最古の玉は、今津町の北仰西海道遺跡から出土した縄文時代晩期(約3千年前)の緑色のヒスイの丸玉で、当時としては絶対的な硬さとそれを加工する技術、産地がごく一部に限られるという希少性に価値があったと考えられます。

弥生時代以降になると碧玉や緑色凝灰岩製の細長い円筒形の「管玉」や、青色のガラス製の小玉が作られるようになります。いずれも緑や青を基調とし、緑は自然の象徴であり、生命力や安心・恒常を連想させ、安らぎ・癒しの色であることは現代を生きる私たちにも共通した感覚といえます。青は空・海・水に代表され、緑と並んでとても身近な色で、物質的

には希少性が高く、色も非現実的で神秘的と言えます。管玉は、佐渡や北陸・山陰など日本海側が石材産地ですが、弥生時代中期には市内の拠点集落である先述の北仰西海道遺跡や新旭町熊野本遺跡、安曇川町南市東遺跡から原石の破片や玉砥石等の玉造り関連遺物が出土していることから、原石を移入して、市内でも管玉の製作



〔新旭町〕熊野本遺跡弥生墳丘墓から出土したガラス製小玉

が行われていたことが分かっています。ガラス玉は、熊野本弥生墳丘墓の木棺内から741個の青色のガラス小玉が出土しているのをはじめ、市内の古墳などから数点から数十点単位で発見されることとよくあります。

復活と再生を願う勾玉

古墳時代になると社会の仕組みが大きく変化し、それに伴い玉の材質と色にも変化が起きます。緑のヒスイ・碧玉に、赤のメノウ、白・透明の水晶の素材が加わります。赤は血や太陽の色で、復活・再生を意味し、縄文時代以降、漆製品や赤色顔料にも多用されていました。緑青を基調としていた連珠のなかに赤い玉が加わることは、癒し沈静の装身具である玉が首長の靈魂を復活・再生させる意味も持っていたと考えられます。

勾玉は三種の神器の1つに数えられるように王権の象徴とされるもので、市内の古墳ではメノウ製の勾玉がマキノ町齊頼塚古墳から1点、ヒスイ製の勾玉は今津町妙見山古墳40号墳から3点、安曇川町上御殿遺跡の木棺墓から1点、ガラス玉などと共に発見され

ているだけです。

「玉」は「魂」に通じる言葉で、古代においては呪術的な意味のシンボルとして広く普及していたと考えられています。

今津図書館ではこれらの資料をエントランス展示「古代の装身具―発掘された宝石たち―」として9月29日まで開催しています。



〔マキノ町〕齊頼塚古墳から出土したメノウ製勾玉

図文化財課
☎(32) 4467

読書、食欲、睡眠…たくさんさんの名前を持つ「秋」が近づいてきました。その中でも9月は市内の各小中学校や保育園・幼稚園で運動会が行われる時期です。「運動の秋」の先駆けとして、いろんな地域から子どもたちの元気な声が聞こえてきそうですね。それに加え、9月は台風の時期でもあります。今回の特集では、災害時の備えや役立つ情報をまとめた「高島市総合防災マップ」を取り上げています。ぜひご確認ください (M)

編集後記

広報たかしま

平成27年

9

月号
No.188

発行▼高島市
〒160-0106 滋賀県高島市新旭町北畑5の6番地

編集▼政策部秘書広報課

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp



市役所本庁周辺の遺跡

現在、高島市役所本庁の南側で、市道花貝大畦線道路改良事業に伴う発掘調査を行っています。

JR新旭駅の周辺一帯は、堀川遺跡と下花貝遺跡が含まれており、今回、発掘調査を行っている場所は、下花貝遺跡に該当します。堀川遺跡と下花貝遺跡は、弥生時代後期（1世紀）から鎌倉時代（14世紀）にかけての集落跡と考えられています。

下花貝遺跡の調査成果

下花貝遺跡は、新旭町北畑に所在する集落遺跡です。平成14年度に旧新旭公民館駐車場整備に伴い試掘調査が実施されました。

この調査の結果、古墳時代後期の溝1条と、古墳時代前期を中心とする土器集積が見つかっていることから、古墳時代前期から後期にかけての集落跡が広がっていたと推察されます。

堀川遺跡の調査経過

堀川遺跡は、新旭町旭・北畑（JR新旭駅周辺一帯）に所在する南北約700m×東西約500mの広がりをもつ集落遺跡です。昭和27年の湖西中学校校庭整備工事の際に土器が発見され、昭和45年のJR湖西線（当時の国鉄）建設に伴い、はじめて発掘調査が実施されました。

平成17年度には、市道平井園園1号線道路改良事業に伴う発掘調査が実施され、弥生時代後期の土坑群や古墳時代後期の溝、室町時代後期の鍛冶跡や火葬墓が見つかりました。

平成19年度には、市道新庄木津線道路改良事業に伴う発掘調査が実施され、弥生時代後期の土坑群や古墳時代後期の溝、室町時代後期の鍛冶跡や火葬墓が見つかりました。

下花貝遺跡

発掘調査中！

査がJR新旭駅の北側で実施され、平安時代末から鎌倉時代にかけての掘立柱建物、溝などが見つかりました。

広がる堀川遺跡

平成19年度の調査で、JR新旭駅の北側周辺で弥生土器が発見されたことから、これまで認識されている弥生時代後期以降の集落域が、さらに北側に広がる可能性がでてきました。

これまでの調査で、堀川遺跡から古墳時代後期の竪穴住居跡10数棟、平安時代中期から後期にかけての掘立柱建物跡30数棟が発見されており、当時の集落の一端が明らかになりました。

現在、発掘調査中

現在、下花貝遺跡においては、

発掘調査中であり、明確な遺構は見つかっていませんが、今後の調査の積み重ねによって、堀川遺跡周辺の集落の様子が明らかになっていくでしょう。

図文化財課 ☎(32) 4467

編集感

今月は、リオ五輪セーリング競技日本代表の伊勢田選手取材のために、青柳小学校や壮行会に参加させていただきました。伊勢田選手から「楽しむことが上達へつながること」、「笑顔を大切にすること」についての話を聞き、常に楽しそうに笑顔で話される理由が分かったような気がしました。オリンピックでは、楽しみながら持てる力を発揮できることを願っています。応援で更に力を！みんなで伊勢田選手に高島から熱い風を扇子で届けましょう！（H）



広報たかしま

平成28年

8

月号 No.199

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒900-1024 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

発掘調査による新成果

「高島市歴史散歩No.140」では、JR新旭駅周辺に所在する下花貝遺跡と堀川遺跡の調査成果を紹介しました。今回は、平成28年5月から発掘調査を実施した下花貝遺跡の最新情報を報告します。

今回の調査は、市役所南側で道路改良事業に伴い道路が拡張される場所を対象に実施した調査で、地表面から下へ約1mから1.5mの深さまで掘り下げたところから、竪穴建物、堀立柱建物、柱穴、土坑（柱穴よりも大きな穴の跡）、溝などの遺構を確認しました。



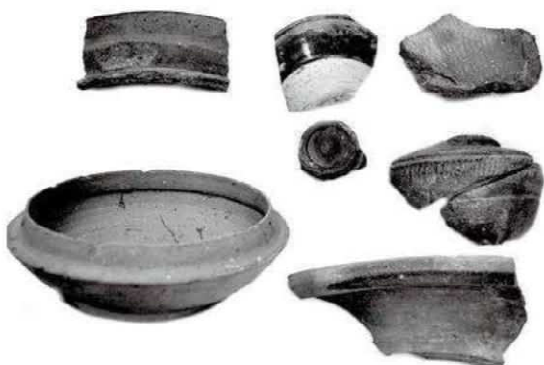
竪穴建物

下花貝遺跡の

最新情報

竪穴建物に残る炉の跡

これらの遺構のうち竪穴建物の形状については、炭混じりの砂質土が方形状に見られました。この建物は、新しい時期の溝で切断されていました。炭混じりと焼けた土の所があることから、この場所が炉の跡であると考えられました。



出土遺物

遺物から分かる食生活

炉については写真の四角形の部分にありました。この建物の柱位置については、両側から2つずつ柱（◎の部分）が近接して見つかっています。今後、類例から柱構造を検討していきたいと思っています。この写真の隣からも竪穴建物を確認できました。この建物内の土坑からは、煮炊き跡が残る土師器の「かめ」や須恵器の「坏身」が出土しました。

次に出土遺物については、土師器（かめ・高坏）、須恵器（坏身・かめ・はそう）、瀬戸美濃（天目茶碗）、信楽（すり鉢）などがありました。これら遺物のほとんどは、破片で出土しました。その一方、先ほど紹介した竪穴建物から出土した土師器や須恵器は、土器

の形（器形）がわかるぐらい残りがよいものや大きな破片があったことから、古墳時代（現在から1400年から1500年前）のものと考えられました。この他に、魚とりを使用する網に結び付けていた「土すい・石すい」の出土があり、古墳時代の食生活の様子を知る資料が見られました。

図文化財課

☎(32) 4467

編集後記

10月は市内各地でイベントが多数開催されており、取材として「Blue Green Fes」と「2016びわ湖高島栗マラソン」の会場を訪れました。両イベントとも天候に恵まれ、各地で市外から来られた方が楽しそうに過ごされている様子を見かけました。高島には山あり、川あり、湖あり、メタセコイア並木あり、トレイルコースありと、本当に魅力的な自然が揃っています。これらの魅力をみなさんと一緒に市内外へ発信できるように、これからも広報担当頑張ります！（H）



広報たかしま

平成28年

11

月号
No.202

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒500-1-0001 滋賀県高島市新旭町北畑565番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

古墳時代の高島

古墳が造られた時代

最近、大阪の百舌鳥・古市古墳群がユネスコ世界文化遺産登録の推薦候補に決まったことが大きく報道され、古墳・古墳群がとにかく注目されるようになりました。古墳が象徴的に築造された古墳時代は、3世紀後半から7世紀にかけての古代国家形成期にあたります。この間、日本列島には前方後円墳（鍵穴型）と呼ばれる独創的な首長墓が数多く造られます。古墳時代は大きめに前期・中期・後期と分けられ、高島市内では70か所以上の古墳・古墳群が確認されています。

高島に残る古墳

前期では、熊野本古墳群（新旭町熊野本）や妙見山古墳群（今津町日置前・福岡）などが見られます。また、中期になると平ヶ崎王塚古墳（今津町日置前）・田中王塚古墳（安曇川町田中）などの盟主墳や、渡来系集落の可能性が説かれる南市東遺跡（安曇川町末広・

西万木）が現れます。続く後期には、金銅製の副葬品を数多く有した鴨稻荷山古墳（鴨）が出現し、この地が「日本書紀」に登場するオホド王、後の継体天皇の出自に関連した高島郡南部の三尾郷として伝えられています。

この秋、高島市の古墳時代について概観する特別展「古墳時代の高島」と講演会「古代の高島と継体天皇」を藤樹の里文化芸術会館で行ないます。ぜひご参加ください。図文化財課

☎(32) 4467



現在の鴨稻荷山古墳（北東から）

講演会「古代の高島と継体天皇」

- ▼開催日 11月25日
- ▼時間 13時30分～16時
- ▼場所 藤樹の里文化芸術会館
- ▼内容 報告1「鴨稻荷山古墳と高島」
宮崎雅充（市教育委員会文化財課）
報告2「林ノ腰古墳と近江」
辻川哲朗氏（（公財）県文化財保護協会）
講演「謎の大王 継体天皇」
水谷千秋氏（堺女子短期大学教授）

▼参加費 200円

▼参加申し込み・問い合わせ

高島歴史民俗資料館 ☎(36) 1553 FAX(36) 1554

✉shiryo@city.takashima.lg.jp

※10月4日（水）から受付開始

○秋季特別展 「古墳時代の高島」

【開催期間】

11月17日（金）

～12月3日（日）

【開催場所】

藤樹の里文化芸術会館

【休館日】

月曜日

【開館時間】

9時～16時30分

【料金】

入場無料

編集後記

秋と言えば、スポーツや食、芸術など様々ありますが、高島市での「秋」は何だろうと考えた時、一番目に浮かぶのは木々の紅葉や赤とんぼ、また夕方の川沿いで風に揺れているすすきでした。他にもコスモス畑や湖岸沿いの彼岸花など、生活の中で目に入る「秋」を思い浮かべながら、どの風景にもゆっくりとした時間が流れていることに気づきました。夏の暑さが引いていくにつれて、散策やウォーキングに適した時期になってきます。「秋」を見つけに、ゆっくりと近所を散歩してみるのも良いかもしれませんね。(M)



広報たかしま

平成29年

10

月号

No.213

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒500-1-0001 滋賀県高島市新旭町北畑565番地

☎0740(25)8000(代)

✉http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp

みて・ふれて・かんじて

古墳時代の高島

展示「古墳時代の高島」

藤樹の里文化芸術会館で開催します「古墳時代の高島」(期間: 11月17日(金)～12月3日(日))は、高島の古墳時代を「みて・ふれて・かんじて」もらえる展示となっています。文字の史料が少ない古墳時代のことを、発掘調査の出土品などから分析し、当時の社会や文化、地域間の交流などのようすを明らかにしています。

ここでは、その一部を紹介しましょう。

新旭町の森浜遺跡の琴

新旭町木津の南から琵琶湖岸に位置する「森浜遺跡」では、周辺各地の古墳時代前期から中期の土器が出土しています。このようすから、各地の文物や人々が交流していた集落であるといえます。この遺跡からは、「琴形木製品」が3点出土しています。古墳時代には、琴を弾く人物埴輪が存在することから、琴は葬送儀礼の伴奏楽器として利用されていました。今回の展示では、森浜遺跡出土琴の復元模型を製作しましたので、古代の琴の調べを楽しんでみてください。

鴨稻荷山古墳の家形石棺

高島の古墳といえは「鴨稻荷山古墳」があげられます。全長45mほどの前方後円墳ですが、後円部に造られた横穴式石室には、長さ2.3m、幅1.2m、高さ1.2



家形石棺の模型

「みて・ふれて・かんじて」展示

mを測る巨大家形石棺が安置されています。この家形石棺は、大阪府と奈良県の境にある二上山から運ばれた凝灰岩を使用しています。その重さは3.5tにもなります。展示では、「実物大の模型」と石棺の運搬を体験できる「三石棺曳き体験コーナー」がありますので、ぜひお楽しみください。

他にも、鉄鉱石を産出するなど鉄生産の要であったマキノ町の鉄

生産関連資料として「鉄鉱石重さ磁力体験」や、新旭町井ノ口の下平古墳群出土の円筒埴輪の展示による「埴輪背くらべ体験」、昭和49年の湖西線開通に伴い安曇川駅周辺の南市東遺跡から出土した渡来系遺物も出品を予定しています。

展示期間中には、講演会「古代の高島と継体天皇」(11月25日(土))も開催されます。展示と講演を通じて、高島の古代ロマンを「みて・ふれて・かんじて」みるのはいかがでしょうか。

図 高島歴史民俗資料館
(36) 1553

編集後記

今月号の表紙は「タカシマサトパスツアー」にスタッフとして参加させていただき、その時のようすを撮影したものです。当日は、白鬚神社からスタートし、最後にメタセコイア並木と、市のフォトジェニックスポットを巡りました。市内には、最近流行の「インスタ映え」する場所が、たくさんあります。みなさんもインスタで「#たかP写真館」のハッシュタグを付けて、お気に入りの「たかしま」を投稿してくださいね！(Y)



広報たかしま

平成29年

11

月号 No.214

発行 高島市 編集 政策部企画広報課
〒590-1-0001 滋賀県高島市新旭町北畑6-6の番地

☎ 0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
E: info@city.takashima.lg.jp

北牧野古墳群

大規模な群集墳

北牧野古墳群は、知内川の支流で、マキノ高原付近を流れる斧研川周辺に分布しています。分布調査や測量調査によって、これまでに100基を超える古墳が確認されており、大規模な群集墓であったことが明らかになっています。この地域周辺では今でも墳丘や石室の痕跡を見ることが出来ます。

平成11年には県の文化財保護協会と教育委員会による調査が行われ、北牧野古墳群の中でも特に



北牧野2号墳石室内遺物出土状況
※現在は埋め戻されています

規模が大きく、墳丘の残存状況が良好な2基の古墳が測量調査で見つかりました。2基の古墳は、2号墳・3号墳として発掘調査が実施されました。

2号墳

2号墳の墳丘の規模は直径15m、高さ1.5mで、内部から横穴式石室が検出されました。遺体を安置する部屋とされる「玄室」では、奥の壁あたりにベンガラが塗布され、銀製耳環、金銅製単龍環頭大刀が当時のまま置かれていました。ベンガラ塗料は特別な空間を創り出す際に塗付されていたもので、その近辺に耳環が置かれていたことから、奥壁に頭を向けて遺体が安置されていたと考えられます。

3号墳

3号墳の墳丘の規模は直径17m、高さ1.8mで、2号墳よりもやや大きなものです。横穴式石

室の玄室からはベンガラ塗料は確認されませんでした。銀製耳環が3つと、三輪玉と呼ばれる大刀に装飾されるものが見つかりました。この状況から少なくとも二人が埋葬され、本来は装飾大刀が副葬されていた可能性があります。

北牧野古墳群の造営者

北牧野古墳群の周辺には、製鉄遺跡が多く見られます。例えば、旧今津町に分布する甲塚古墳群では製鉄に関連する遺物が一点検出されており、製鉄遺跡である東谷遺跡が隣接しています。また、同じく旧今津町の妙見山古墳群からも製鉄に関連する遺物が見つかっています。このように製鉄と古墳群は密接な関係にあると考えられ、北牧野古墳群と周囲に分布する製鉄遺跡にも同様の関係が想定



金銅製単龍環頭大刀(部分)
この大刀のほか、発見された副葬品は、現在、東京国立博物館に所蔵されています。

されます。こうした想定に基づく、北牧野古墳群は製鉄技術をもつ集団の群集墓であり、金銅製単龍環頭大刀や三輪玉が副葬されていた2号墳・3号墳は製鉄技術者集団の首長の墓であったと考えられます。

図文化財課

(25) 8559

編集雑感

芸術、文化やスポーツを満喫した秋が過ぎて、季節はたちまち冬へ。暖房器具や冬物衣類の準備はお済みでしょうか。

今月の575のコーナーには、そんな師走や新年を迎えるための準備や冬支度のようすが詠まれた句が多くみられます。

冬支度といえば、今どきはインフルエンザの予防接種も欠かせません。この冬を元気に乗り切るため、「インフルエンザに備えよう」を参考に、健康管理を心がけましょう。(YK)



広報たかしま

令和元年

12

月号
No.239

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒740-0255 高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25) 80004
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp